

2. 北区に根付く地域文化

コラム④ 北区の伝統文化

先ほどのページで紹介した「北区歴史と文化の八十八選」の他にも、北区では農村歌舞伎や獅子舞などの伝統文化が地域に根付いています。このページではそんな北区の伝統文化をちょっとだけ紹介させていただきます。

【農村歌舞伎】

明治30年頃、新琴似地区では田中松次郎が、篠路地区では花岡義信が中心となり、農村の娯楽として素人歌舞伎が盛んに演じられていました。いずれも大正から昭和にかけて一度途絶えましたが、地域住民の熱意により復活しています。



篠路歌舞伎（花岡義信）

【藍 染】

明治15年、徳島県出身の滝本五郎が篠路村で興産社を興し、故郷の特産品「藍」の栽培や藍染の原料である「すくも」の生産を明治末年まで盛んに行っていました。現在はその伝統を受け、地域団体の手で藍染が行われています。



藍染体験

【篠路獅子舞】

富山県から篠路烈々布に入植した若者らが、明治34年にふるさとを懐かしんで獅子舞を演じたのがきっかけとされています。優雅で女性的な舞いが特徴で、現在も伝統を絶やすことなく篠路神社の秋祭りに奉納されています。



篠路獅子舞奉納

【亜 麻】

明治23年から昭和32年までの間、現在の麻生地区では亜麻の製線工場があり、その歴史は「麻生」の地名にも残っています。現在も麻生では、亜麻の花の栽培や「亜麻そば」の商品化など、亜麻によるまちづくりが進められています。



かつて麻生地区にあった製線工場

【お問い合わせ】 北区市民部地域振興課まちづくり調整担当係 757-2407